



4. 計画規模と将来方針(案)について

計画規模の目標（案）

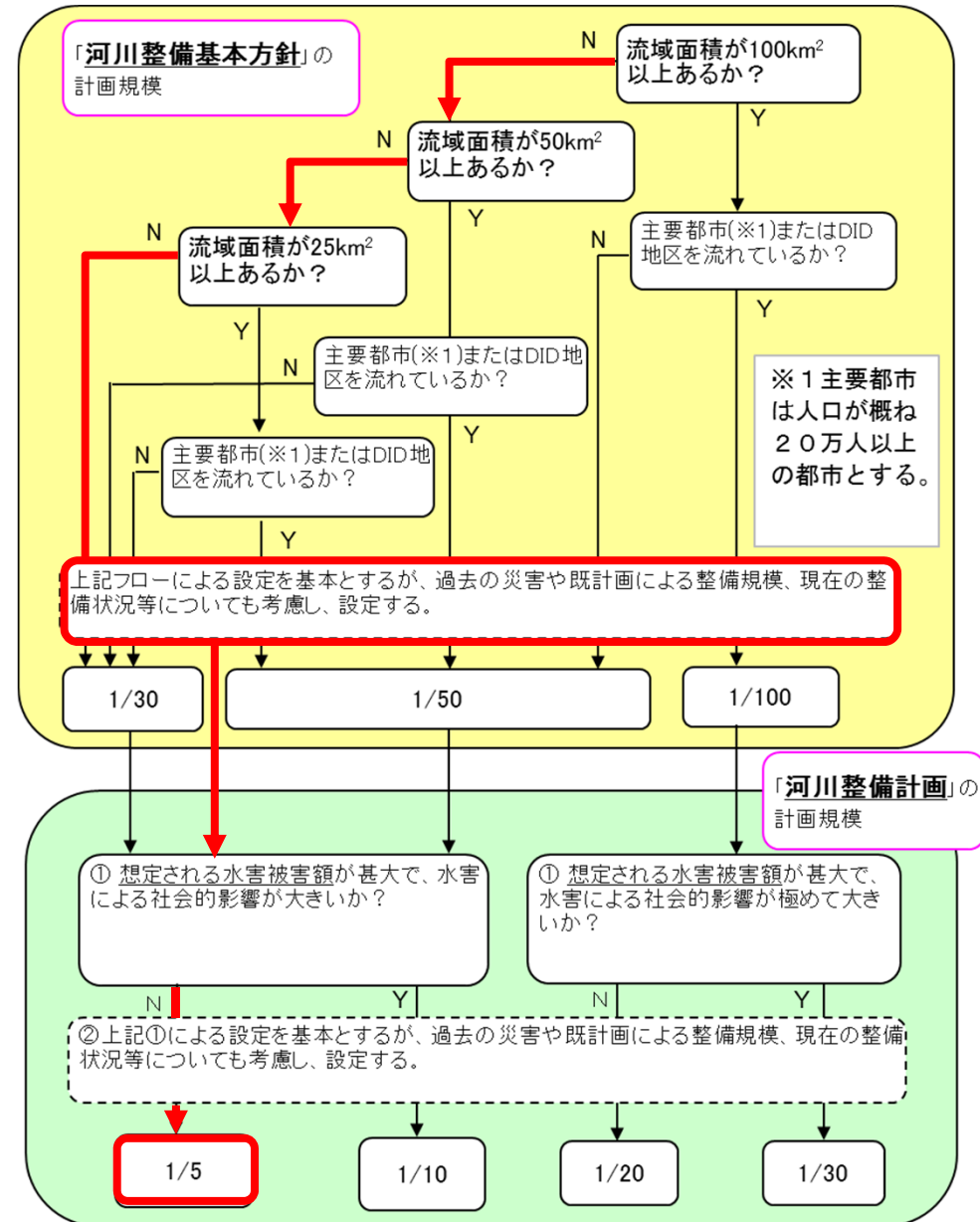
- 計画規模のバランスや過去の災害・現在の整備規模、既計画の計画規模を踏まえ、計画規模を設定する。

■新計画

- 将来の方針 S49. 7実績降雨
(24時間雨量 332mm)
年超過確率 1/50程度
- 整備計画 年超過確率1/5
(24時間雨量 167mm)

■既往計画

- 鍋田川改良工事全体計画
 - 将来計画 S49. 7実績降雨
 - 暫定計画 年超過確率1/5



(参考)愛知県の計画規模設定フロー図

鍋田川の将来規模の目標（案）

【洪水】

鍋田川圏域において、代表的な洪水である昭和49年7月の降雨（24時間雨量332mm）による洪水を安全に流下させる。

【高潮】

伊勢湾台風規模の高潮による浸水被害の防止を図る。

【河川津波】

南海トラフ沿いで発生する、発生間隔が数十年から百数十年に一度規模の地震・津波（施設計画上の津波）に対し、水門等により津波災害から人命や財産等を防御することを目標とする。

【地震対策】

南海トラフ沿いで発生する地震や内陸直下型地震に対し、河川堤防が地震により沈下し、地震直後の平常の河川水や、復旧期における小規模な洪水が堤防を越流して発生する被害を防ぐことを目標とする。排水機場及び水門については、地震後も必要な機能を確保することを目標とする。